

議会だより



新競技の担架リレーも加わって…
雨にもかかわらず地域みんなの気持ちはひとつに!!
(町民体育祭 10/7)

平成24年
9月定例会
9/7~9/28

- ◆決算に対する総括質疑に2議員…………… 2~3 P
- ◆平成23年度決算審査と討論…………… 4~6 P
- ◆一般質問で5議員が登壇…………… 10~12 P
- ◆23年度予算審査意見その後追跡…………… 13 P
- ◆町を彩る団体紹介…………… 14 P

12月定例会のお知らせ

12月6日(木)から開会の予定
本会議・委員会の傍聴できますーお気軽にどうぞー

平成23年度

決算について2名の議員が問う

「防災」「団体への補助金のあり方」「子育て支援」「購入が決まっている東大果樹園跡地の今後について」など多岐にわたった。

近藤行宏議員

補助金は根拠と基準を明確にし

適切な交付を！



に決めることが重要であり子育て支援施策として、どのように位置づけていられるのか。

定住促進の「ことごとく」

町長 子育てサロンの3カ所目が山西地区という話は以前からしている。まずは子育てサロン、又は町立保育園、補助金を

睨みながら、施設をつくっていくことも定住促進につながると感じる。

近藤 「町長とのふれあいトーク」でも述べられている百合が丘保育園については、利便性、収容人員移転も含め、早期に庁内検討され、実施計画への取組みが必要である。

近藤 18年度より、行政評価を行いその結果を、施策や事業の改革、改善予算編成などに反映され特に環境面で、ごみ処理広域化へ復帰したことは町民へごみ問題の安心をもたらし、評価される。補助金について、交付団体によっては、剰余金も補助金額を上回っているにも関わらず、補助金の交付を行っているが。

会計報告を出させる

町長 団体によっては補助する必要もある。ただ、相変わらず補助金頼みの団体というのもある。町

の財政がいかに危機にあるか皆で共有してもらいたい。会計報告を出させることも考えている。

近藤 全国で防災意識が高まっている中、自主防災組織のレベルアップを図り、20地区を同レベルにすることが喫緊の課題。

町長 「1人の犠牲者も出さない為に」きめ細かな地域防災計画の見直しを進め、全地区の防災力の底上げを図っていく。

近藤 子育て施策の中で子育てサロン、百合が丘保育園のあり方など、凍結から5年の国立小児病院跡地の活用目的を早期



安定・安全・安心な
廃棄物処理の確立へ前進
(上図は平塚市の(仮称)次期環境事業センター)

小笠原陶子議員

東大果樹園跡地対策を問う 漁港廃止論と子ども防災



小笠原 23年度に補正予算で東大果樹園跡地を4億5千万円で取得契約した。その後、跡地の土壌汚染で引き渡しが遅れ現在は荒れ放題。暫定的な土地利用までの管理を問う。また整備計画策定の町民参加枠が少ない。タイムスケジュールを聞く。町長 検討委員の一般公募枠は増やす。次年度より5年から10年の暫定的な土地利用案と将来的な土地利用構想を検討する。現在の管理はまだ東大なので、少し待ってはほしい。

小笠原 二宮漁港の整備方針の今後と二宮海岸の
町長 漁港廃止には補助金返還問題がある。漁港
指定区域とすることで町の
の利活用が図れる。海岸
浸食問題は県と協力し国の
直轄事業化を27年度を目
標に要望している。
小笠原 3・11後二宮町
地域防災計画を改定して
いるが、防災はあらゆる
世代が危機意識を持って
対応しなければならぬ。
特に子どもの命を守ると
いう視点から小さい子
を持つ保護者の自助・共助・
公助の進め方を問う。
保護者の知識取得を

漁港指定で利活用を

町長 漁港廃止には補助金返還問題がある。漁港



大地震から子どもを守るセミナーを
11月4日に実施します

町長 保護者の防災意識の高揚と防災知識の習得が肝要だ。日頃から地域のコミュニティを築くことが共助につながる。

保護者の知識取得を

町長 保護者の防災意識の高揚と防災知識の習得が肝要だ。日頃から地域のコミュニティを築くことが共助につながる。



行政用語の手話通訳も
お手のもの

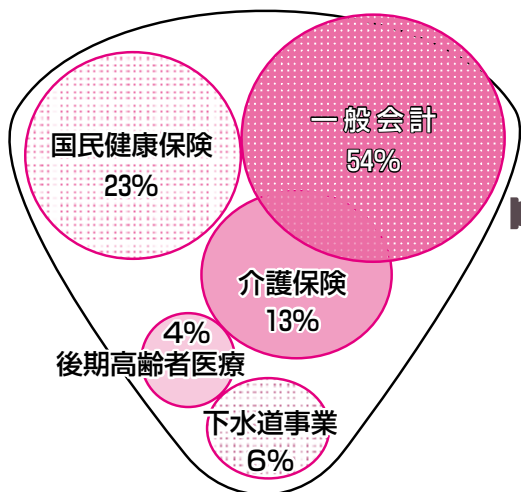
この9月議会から新たに、一般質問で手話通訳を導入しました。質問当日は聴覚障害の方たちが傍聴に訪れ、待ちに待った手話同時通訳による一般質問を興味深くみて行かれました。発言者は初めこそ手話通訳に気を使い、ゆっくりと話をするようにならしていましたが、議論が白熱していきうちに、議員も職員も段々と早口になってしまいい、途中からはすっかり手話通訳のことを忘れてしまう場面も…。議会終了の後、傍聴に来られた聴覚障害の方からは「これまでは議会に関心が持てなかったが、手話通訳がいたのでこれからは傍聴に来たい」また「テレビ放映もみましたが画像が悪くてみづらかった」など率直な感想も寄せられました。県内の33市町村で初めて導入となりましたが、後に続く市町村が現れてくれれば先駆的に導入した二宮町議会としてはこの上ない喜びとなるのですが…。

決算審査

子育て支援事業に意欲的な取り組み 議論白熱 “東大果樹園跡地購入”

(単位は円)

町のお金の使いみち



百合が丘公会堂



せせらぎ公園

会計名	歳入	歳出
一般会計	81億7071万	74億4271万
国民健康保険特別会計	34億5474万	32億 46万
後期高齢者医療特別会計	6億1527万	6億 132万
介護保険特別会計	19億 974万	18億3826万
下水道事業特別会計	8億3355万	8億1585万
計	149億8401万	138億9860万

こんなことに使いました

議会費	1億5,030万
総務費	11億6,930万
民生費	22億8,846万
衛生費	9億8,107万
農林水産業費	8,170万
商工費	8,702万
土木費	9億1,635万
消防費	4億2,109万
教育費	7億4,361万
公債費	6億 381万
計	74億4,271万

決算審査特別委員会の委員の構成は次のとおり。

◎委員長 池田宏
○副委員長 根岸ゆき子
▽委員 西山宗一 脇正文
添田孝司 近藤行宏
三橋智子

◆委員会結果
一般会計 賛成5 反対1
特別会計には全員賛成をし、近藤委員が賛成討論、根岸委員が反対討論を行った。

審査意見

①各種団体への補助金については必要性を精査の上、有意義な交付手法を確立されたい。

②事業全般において、つね日頃から課題や問題点を明らかにし、有効な交付金の活用を図られたい。



- ③少数精鋭での行政運営ができるよう人材確保に努め、目的を明確にした職員研修を実施されたい。
- ④町内の公共施設においては、発災時に的確な対応ができるようマニュアルを作成し、管理従事者への教育を図られたい。
- ⑤小中学生のインフルエンザ予防接種の補助を図られたい。
- ⑥吾妻山公園をはじめ、町施設の借地のある方について検討されたい。
- ⑦ふたみ記念館について、限られた運営管理費の中で、観覧者を増やすための工夫をされたい。

決算に対し

賛成討論

賛否両論

賛成討論
桑原英俊議員

各種事業の順調な進展 を評価し賛成！

賛成理由については、町の観光スポットである吾妻山公園の再整備として、園路の拡幅、バリアフリー化を行なうとともに老朽化が進んだ管理棟をリニューアルしたこと。また、(仮称)風致公園は、造成、排水設備等を整備し、計画的に取り組んでいる。農業の再生については落花生、湘南ゴールドの普及促進、漁業再生では、さかなの朝市の開催補助、漁業塾の開催などを行っている。町道27号線は全線交互通行に向け、また一歩前進



バリアフリー化した
吾妻山公園の管理棟

した。東大跡地利用は町民とともに夢が持てる事業として期待する。小児医療費助成対象を小学校6年生まで拡大したこと、ファミリーサ

ポートセンターの開設、百合が丘保育園での一時預かり保育の導入など、子育てに関する環境整備を行ったことを評価し、5会計の決算に賛成する。

反対討論

神保順子議員

東大果樹園跡地購入のための 基金の取り崩しに反対！

23年度一般会計補正予算で東大果樹園跡地購入のために、財政調整基金1億3千万円を取り崩したことが反対の大きな理由である。また他の基金4つを廃止一本化し、24年度に災害対策基金を新設したものの、たった300万円しか積み立てていないことから、いつ起こるか分からない災害に備えるよりも東大跡地の土地取得を優先させたことは、町民の命を守る

立場にある行政の行なうべき行為ではない。個別事業については、子どもの一時預かりや、ファミリーサポート事業の実施は子育て支援の拡大。また、スクールソーシャルワーカーの導入は教育環境の拡充が図られたものと評価する。二宮ブランド推進とふたみ記念館事業については指摘をし、事業手法の見直しを求める。4特別会計については賛成する。

議論の中心！東大果樹園跡地



浅賀一伸議員

町民と議員を混乱させた 東大果樹園跡地購入で反対！

一般会計決算には反対する。主な理由は東大果樹園跡地購入をめぐる対応や資金作り。この件では議員も町民も混乱させられた。どうしても購入したければ借金でも良かったはず。少しずつ返済しながら福祉を充実させることもできたはずだ。また町医師会・町歯科医師会への補助金は、真摯に町の厳しい財政事情を聞いてもらおうべきだ。来年度予算について、

黒岩知事や臨調が市町村補助金など削減方針だが、町には切らせる補助金はないという強い気持ちで協議してほしい。国保会計は資産割を16%から8%へ引き下げ、町民負担軽減を図ったことを評価し賛成。しかし滞納者や資格証発行は依然多いので改善を。後期高齢者医療特別会計は制度に反対。介護保険特別会計と下水道事業特別会計は賛成。

小笠原陶子議員

東大果樹園跡地購入に反対

ふたみ記念館の運営見直せ

23年度は東日本大震災の影響を受けた年。福島第一原発の放射線被害は大きい。その対策は遅く、測定機器の購入も24年度になった。東大果樹園跡地購入契約4億5千万円も財政硬化化を招くために反対。子育てしやすい町のための教育予算だが、ふたみ記念館に約1千222万8千円の支出。開館してすぐに県への申請ミスが発覚し閉館した。町長は3年間様子をみてほしいと、記念館

には寛大だが、図書費は削ると明言した。年間25万人利用の図書館と1か月100人前後利用の施設とどちらが重要か冷静な判断を。

22年度と23年度で栄通り商店街再整備調査委託が186万9千円で実施されたが、計画だけでその事業は実施されない。核となる人がいないとの答弁は無計画だ。海岸整備の進捗情報も県に任せ、情報提供が少ない。

根岸ゆき子議員

東大跡地購入は前代未聞の会計処理

活用の位置付けを明確に！

東大果樹園跡地購入費4億5千万円は、全額が事故繰り越しされた。これだけ多額かつ全額の事故繰り越しは前代未聞である。土壌汚染の発覚により支払いを延期した。使用歴からして土壌汚染の可能性は予想できたはず。更に町が所有する前

から利活用の意見募集も始めた。町全体から見た意見がほしい、との総括答弁だが決算説明書に一言も説明されず、活用の位置付けが明確にならないため、町民意見がいかされない心配が残る。これらのことから一般会計の決算認定には反対する。

他、せせらぎ公園親水施設事業の検証とふたみ記念館の広報費97万円の予算流用を指摘。節約をして経費削減の実現、ファミリーサポーターセンター事業の委託、一時保育の開始、川匂に防災無線の設置、津波対応に掲示板作成など評価。

～議員提出議案～

10月18日県に意見書を提出

百合が丘地区内の未利用地 売却計画浮上する

百合が丘地区内における神奈川県住宅供給公社所有の未利用地の一部が既に開発目的で民間業者に売却され、更に今後の売却計画があることも判明した。百合が丘地区の未利用地は40年以上も緑地として維持されてきたので、開発による住環境の低下を危惧する住民の声が高まった。議会では、総務建設経済常任委員会を9月10日に開催し、審

査した結果、神奈川県と神奈川県住宅供給公社へ意見書を提出することが可決された。

その後、9月16日に百合が丘児童館において、百合が丘地区長協議会主催のもと、神奈川県住宅供給公社による未利用地売却の経過と今後の計画

について、二宮町からの説明があった。その結果、住民側から町議会に対して要望書が提出された。町議会としてはこの要望書に基づき意見書を作成し、議員提案として本会議に上程。全会一致で可決した。

説明会場には100名もの住民が詰めかけた



議会 で 決まったこと

総額4億6千万円の追加を可決

補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれに1億4千898万2千円を追加し、予算総額を76億6千98万2千円とした。

歳入の主な増額は、地方交付税4千555万2千円、県補助金1千98万4千円、特別会計繰入金1千967万7千円、繰越金7千60万1千円など。

歳出の主な増額は、総務管理費1億1千141万8千円、社会福祉費745万1千円、衛生費総額1千754万4千円、教育費総額120万6千円、予備費1千124万5千円など。質疑として

問 公会堂運営補助金増額の理由は何か。

答 百合が丘公会堂備品購入など。

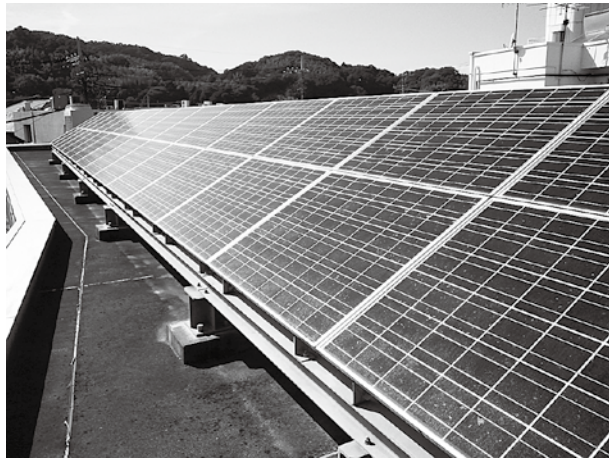
問 子宮頸がん等ワクチン接種事業の補助率の表現が違う変更があったのか。

答 昨年と同じ。

問 大型ごみ運搬処理処分委託料が257万1千円の増となった理由は何か。

答 台風の影響などで海岸ゴミが大幅に増えた。

問 住宅用太陽光設置世



二宮小学校屋上への太陽光パネル設置を大きく期待!! (ITふれあい館屋上)

帯の後追い調査は。報告あり。

問 二宮小学校校舎荷重計算委託料は何か。

答 屋上に太陽光パネル設置のため。全会一致で可決

国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれに2億1千928万2千円を追加し、予算総額を36億9千243万8千円とした。

歳入の追加は、繰越金2億1千928万2千円。歳出は、基金積立金1億5千万円、償還金及び

還付加算金4千692万9千円、繰出金683万6千円、予備費1千551万7千円であった。

問 繰越金が2億1千900万円もあるのは何故か。来年度国保税を下げの予定はあるのか。

答 医療費が安く済んでいることが要因のひとつ。見直しはしない。全会一致で可決

後期高齢者医療特別会計

歳入歳出それぞれに1千244万1千円を追加し、予算総額を6億7千866万8千円とした。

歳入の追加は、繰越金

介護保険特別会計

1千244万1千円。歳出は、繰出金112万8千円、予備費1千131万3千円であった。11対1で可決

歳入歳出それぞれに7千386万2千円を追加し、予算総額を20億9千669万2千円とした。

歳入では、支払基金交付金486万6千円を増額、県負担金148万5千円が減額、繰越金7千48万1千円を追加した。

歳出は、基金積立金5千518万3千円、償還金及び還付加算金696万6千円、繰出金1千171万3千円であった。全会一致で可決

下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれに570万7千円を追加し、予算総額を8億9千134万8千円とした。

歳入の追加は、繰越金570万7千円。

歳出は、総務費115万7千円、予備費455万円であった。全会一致で可決

条例改正は 全会一致で可決 (公布の日より施行)

暴力団排除条例

国の「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」が改正され、条例中の引用条文も改正。

災害対策本部条例

国の「災害対策基本法」の改正で、都道府県災害対策本部と市町村災害対策本部が別々に規定されたことによる改正。

二宮町防災会議条例

国の「災害対策基本法」が改正され、地方防災会議の規定に、「町の防災に関する重要事項の審議」や、「委員は自主防災組織、また学識経験者を追加すること」などが組み込まれたことによる改正。

人事

教育委員会

委員の任命

教育委員会委員2名が9月30日の任期満了に伴い、内海博治氏が再任、蓮實茂夫氏が教育委員会委員に新任された。

内海氏は、同委員2期目・下町在住・70歳。蓮實氏は、中里在住で62歳。共に任期は4年。本会議にて全会一致で同意。

二宮町農業委員会 委員の推薦について

農業委員会委員の議会推薦3名のうち1名に欠員が生じたため、新たに協正文議員を推薦し、本会議にて了承された。

任期は平成26年7月19日まで

議案・陳情に対する賛否

議案番号	議案及び陳情	議員名（議席順）													結果	
		池田宏	西山宗一	小笠原陶子	浅賀一伸	神保順子	桑原英俊	協正文	添田孝司	根岸ゆき子	近藤行宏	二見泰弘	三橋智子	杉崎俊雄		
議員提出議案名																
1	百合が丘地区内における神奈川県住宅供給公社所有の未利用地に関する意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 意見書を 県に提出
町長提出議案名																
45	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
46	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
47	二宮町暴力団排除条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
48	二宮町防災会議条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
49	二宮町災害対策本部条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
50	平成24年度二宮町一般会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
51	平成24年度二宮町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
52	平成24年度二宮町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
53	平成24年度二宮町介護保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
54	平成24年度二宮町下水道事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
55	平成23年度二宮町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
56	平成23年度二宮町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
57	平成23年度二宮町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
58	平成23年度二宮町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
59	平成23年度二宮町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
陳情名		委員長報告														
1	県費補助が国庫補助基準を下回らないように財政措置をするよう県に対し意見書を提出することに対する陳情	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択・国に 意見書提出
2	平成25年度における重度障害者医療費助成制度継続についての陳情	趣旨採択	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	平成25年度における障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院支援についての陳情	趣旨採択	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※○は議案に対する賛成、●は反対したことを意味しています。また、退は途中退席、欠は欠席を意味しています。
 ※陳情の賛否については委員会審議を経ているため、委員長報告に対する採択を記載しています。
 ※杉崎俊雄議長を除く12名の議員の賛否状況です。（議員定数14名のうち、1名欠員）

欠員に伴う 委員会役職の変更

総務建設経済常任委員長の欠員により、根岸ゆき子副委員長が委員長に、添田孝司委員が副委員長に選任された。

また議会運営委員会委員の欠員により近藤行宏議員が委員に選任された。

原富士徳議員を悼む

本年7月28日、享年66歳で逝去されました原富士徳議員は、平成14年11月の町議会議員選挙で初当選して以来、3期目として活動されておりました。在任中は、総務建設経済常任委員長を務め、歯に衣着せぬ発言と、抜群の行動力で活躍されました。最近では、海岸問題や定住促進問題に取り組んでいましたが、病には勝てず志半ばで亡くなられたことは誠に残念です。心から哀悼の意を表します。

陳情

はどうなった？

県費補助が国庫補助基準を下回らないように財政措置をするよう県に対し意見を提出することに對する陳情



全会一致で採択
意見書を神奈川県に提出。

提出者は神奈川県学童保育連絡会。

陳情内容は「神奈川県放課後子どもプラン推進事業費補助金交付金要綱」で県の放課後児童健全育成事業補助金を、国庫補助基準と同額としたにもかかわらず、実態は市町村に対する補助金額が県費補助要綱の8割を下回るものであり、市町村の負担増となつていゝる。今後保護者の負担増や事業内容の低下とならないために、国庫基準を下回らない県補助を実施するよう意見書の提出を求めるもの。

平成25年度における重度障害者医療費助成制度継続についての陳情



11対1で趣旨採択

提出者は神奈川県腎友会。

陳情内容は、透析者は高額療養費特例3特定疾病療養者として負担軽減措置があるが、通院費や透析中の食事代など負担も大きく、一方で前記療養者の認定には透析導入時の年齢制限があり、65歳以上では透析以外の治療費が1割負担となる。町の平成25年度予算策定において、重度障害者医療制度で障害児者の負担なく医療が受けられるこ

とを要望するもの。

「後期高齢者医療や自立支援医療制度で負担軽減策があり、介護保険でも介護サービスが提供されている」、「重度の障害者を社会で支えるのは日本国憲法に照らして当然の義務」などの討論があった。

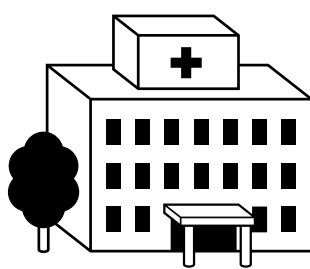
平成25年度における障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院支援についての陳情



11対1で趣旨採択

提出者は 神奈川県腎友会。

会員生活実態調査の結果では、透析者のうちで、自力で通院できない人が50%に上り、高齢化とともにこの割合は増えるこ



とが予想される。また透析施設経営側は送迎サービス継続の難しさを表明している。町の平成25年度予算策定において、障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院支援を要望するもの。

「タクシー利用助成券支給、福祉有償運送協議会への参加、デマンド型交通導入検討などで通院支援がなされている」、「タクシー利用助成券支給には改善が必要。地域公共交通でも現時点で福祉の観点からの具体策がない」などの討論があった。

議会基本条例制定 特別委員会の報告

8月8日午前10時より第16回特別委員会を開催した。前回までの条例案について、法政大学教授の廣瀬先生からアドバイスをいただいた部分に対し検討・修正をし、また危機管理の別途要綱を定めることとした。



8月14日・30日の両日、執行者側と条例について意見交換を行った。

8月18日午前10時より、ラディアンにて基本条例のタウンミーティングを開催した。30名の参加者で11名の方からご意見ご指摘をいただき、活発な質疑応答があり有意義なタウンミーティングとなった。

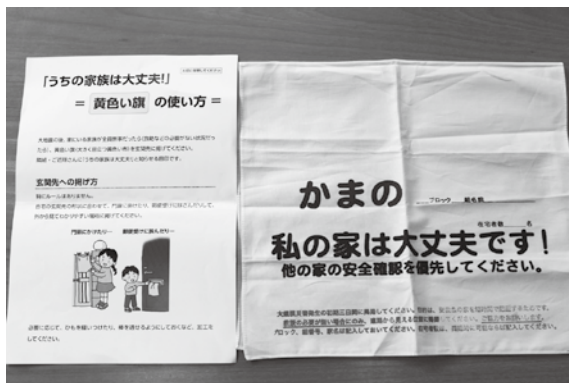
ずばり町政を問う

一般質問

5人が登壇!!



9月20日の本会議では5名の議員が6件の問題を行政側に質問。今回より手話通訳が県下市町村初の試みで導入された。この記事は本人の原稿に基づいて掲載したもの。



地区交付金を活用して
安否確認のための
防災グッズを作成 (釜野地区)

拒否している。
神保 要援護者のための福祉避難所の体制整備を今後どのように進めていくのか。
町民生活部長 福祉避難所については介護事業所との災害協定を9カ所に増やしていく予定である。
神保 日頃からの情報共有を行わなくては災害が起った際に多くの犠牲者を出してしまう。個人情報保護の問題から名簿の受け取りを拒む地区があるとのことだが、他の自治体ではその責任において条例や要綱に情報の外部提供を位置づけているところもある。また要援護者のための福祉避難所については介護事業所と具体的な計画を持ち、さらに地域の社会資源(建物や人)を活用していくことで体制の充実を図って頂きたい。

神保 今夏行なわれた町総合防災訓練を検証した中で、次はどうつないでいこうと考えているのか。
町民生活部長 今回20地区中16地区で、黄色いハンカチなどを活用した安否確認を実施した。今後は全町で取り組めるように進めていきたい。
神保 国が推進する災害
町長 84名が個人情報問題から名簿への登録を
町民生活部長 検討委員
神保 要援護者のための福祉避難所の体制整備を今後どのように進めていくのか。
町民生活部長 福祉避難所については介護事業所との災害協定を9カ所に増やしていく予定である。
神保 日頃からの情報共有を行わなくては災害が起った際に多くの犠牲者を出してしまう。個人情報保護の問題から名簿の受け取りを拒む地区があるとのことだが、他の自治体ではその責任において条例や要綱に情報の外部提供を位置づけているところもある。また要援護者のための福祉避難所については介護事業所と具体的な計画を持ち、さらに地域の社会資源(建物や人)を活用していくことで体制の充実を図って頂きたい。

町の防災対策と 要援護者支援の充実・強化を 神保 順子議員

根岸 地域福祉計画の策定が必要な時期だと考える。健康福祉部各課で持っている個別計画がひと区切りをつけるものもあり、次期総合計画も策定される。2年前の質問では「必要ない」との答弁であったが現在の考え

地域福祉計画策定と ともしびシヨップの展望

根岸 ゆき子議員

はどうか。

計画は作る

健康福祉部長 社会情勢は大きく変化し、計画の必要性も変わったと認識。26年度で終了する個別計画があり、それを目途に策定作業に入りたい。
根岸 計画策定では、現場の声をどう生かすのか。
健康福祉部長 社会福祉に携わる関係機関からの意見徴収はできると思う。
根岸 ともしびシヨップは、町長の発案で開所し、町社協を運営主体としながら寄付や国・県費を活用して3年目を迎えた。今年は売上げ収入



日替わりランチを工夫して憩いの場となっています

意識改革をして自立

のみでやり繰りし運営の検証中であり、存続も心配される。金銭的支援や情報提供について問う。
町長 金銭的支援はしないつもり。黒字化までもう一步だから意識改革をして頑張ることが障がい者の自立のためになる。
就労訓練の場とも考えられるが、社協は自分としては遠い存在なので今後の方針など会長とゆつくり話をしたことはない。
根岸 自立が全面に出ると福祉が置き去りになる。長い目で混乱のないアドバイスが必要。



重くのしかかる
保険税の引き下げを！

町長 基金は有効に活用したい。一般会計からの繰り入れは税の不公平が起るため行なわない。困っている人はいくらでも相談に乗るので来てほしい。(他に「黒岩知事と神奈川臨調の狙い」について質問)

高過ぎる国保税を引き下げ 資格証の発行はやめよ

浅賀 一伸議員

浅賀 二宮町では全世帯の半分が国保に加入し、その中で年収200万円以下の世帯が75%を占めている。そして滞納世帯は20%。無保険者となる資格証明書を発行された世帯は117で、県内町村と比較しても多すぎる。資格証の発行はやめるべきと考えるがどうか。
健康福祉部長 資格証は

期限を1年過ぎても納付されず、相談もなく会えない場合、滞納者との接触を図る目的で発行している。徴収対策チームを組織して訪問もしている。
浅賀 資格証発行については、2年前に国から「自治体の責任で、払えるのに払わないと完全に立証できない限りは発行しないように」という通達がある。

出されている。会えないから発行するでは、実際には特別な事情のある方からも保険証を取り上げる事態になり得る。徴収対策チームは職員に相応な負担を強いるため、事情のある滞納者への慎重で適切な対応や、実情の把握などは困難だと思つた。
町長 実際には損か得かで税を払わない人もいます。
浅賀 そもそも国保税が高すぎるからだ。基金活用や一般会計からの繰り入れなどで税の引き下げをするべきでは。

通学路の安全点検から見えた 課題と、その対策を問う

三橋 智子議員

三橋 度重なる下校中の悲惨な事故を受けて、国は通学路の「緊急合同総点検」を指示した。二宮町の点検の結果はどうであったか。

8カ所を合同総点検

教育長 各小学校から合計43カ所の危険箇所が報告された。防災安全課、

都市整備課、教育総務課の3課ですべて確認をした後、8カ所につき、学校、保護者、警察を交えて合同点検を実施した。

三橋 通学路の点検は毎年行なっているが、それとの違いは何か。
教育総務課長 今回は一斉点検なので、同じ認識で情報共有ができ、共に

車の速度減速が重要

都市経済部長 道路のカラー舗装やランプ設置と共に、速度を減速させ安全を守ることは非常に効果的なので、警察と相談しながら進めたい。

三橋 歩行者を守るために、運転者のモラル向上が必要だが、その対策はどうか。

町民生活部長 看板等でドライバーに注意喚起をしていく。

三橋 自分の身は自分で守る、子どもが危険を予測できる交通教育の推進が今後は特に望まれる。



マナーのないドライバーから歩行者を守る対策を！

二宮町の災害対策は 町民を守れるのか

脇 正文議員

脇 災害対策本部になつて

ている役場庁舎が耐震整備されないのはなぜ。非常食の充足度は。町民への情報伝達は大丈夫か。

町民生活部長 非常食数は、発災時に家庭から家屋倒壊など事情により取り出せない場合を考慮し人口の約3分の1の2食



情報伝達は適確に

分2万560食を備蓄。給水は、百トンの耐震性貯水槽1基ずつをラディアンと一色沖ノ田児童遊園地内に整備。国からの緊急地震速報などの情報は自動的に防災行政無線を通じ瞬時に町民に伝達される。発生後、町は適切な広報活動をする。

役場庁舎の耐震整備は必要だが金がない

町長 検証はしている。早急に何か良い方法でやらなくてはいけない。

脇 試算したことは。副町長 十五、六年前で約3億円くらい。取りか

からなかった理由は財政上の問題。
防災安全課長 町民への伝達方法で、工事等が必要だが、防災行政無線の個別受信機を配布するなどいろいろな方法を検討していかなければならないと思う。

脇 避難拠点基地として二宮高校の安全性は。防災安全課長 耐震診断で耐震性には問題がない。
脇 住民の生活を守るのが町行政の役目。緊急時にも可能な限り最少の被害でおさめられるような安心な町づくりを願いたい。

総合計画等の策定にあたり、各メディアを利用し広く町民の意見を取り入れられたい

次期総合計画の策定過程において、郵送による町民アンケート調査の実施や公募町民で構成した7分野での町民ワークショップ

シヨップを実施した。今後はインターネットまた広報誌を活用し計画案に対する町民意見の募集を行なう予定。

予算編成にあたり、一律の削減ではなく事業の仕分けをし、活性化を図られたい

平成23年度より各課から要求のあった予算見積書の全てを査定する「一件査定方式」を実施。費用対効果など個別の事業内容を精査し、予算編成を行なった。

じん芥収集運搬処理については、安全管理に留意されるところにも、経費の削減をされたい

平成23年度6月から安全管理の徹底を図るため、収集を2名体制に変えて12名から22名に増員をした。経費については適正を図るため、積算方法を工事積算に準拠した方法へと変更した。



施設の健全な運営のために、維持管理計画および財政計画を明確にされたい

多くの公共施設で老朽化が進む中、施設の維持管理計画や財政計画などを位置づけた「公共施設見直し計画」を策定する予定。23年度は状況の把握を行なうために調査を実施した。

追跡

レポート

平成23年度の予算審査意見に対して

大災害の発生が危惧されるなか、町の指導マニュアルに基づき、各地区自主防災の強化を図られたい

各自主防災組織に対して、町総合防災訓練以外に年1回以上の自主防災訓練または研修会等の実施を促した。また各地区の防災指導員に対し講習会を実施して、防災教育



生きがい事業団は早期に法人化されたい

平成23年度には事業団の自主・自立に向けて一般社団法人二宮町シルバー人材センターの設立準備委員会を立ち上げ、町はその支援、助言を行なった。なお24年度4月より法人化された。

を強化。さらに避難拠点基地ごとに避難所運営会議を開催し、災害時の円滑な運営を目指した。今後は黄色いハンカチ等を活用した安否確認を推進していく。



税金滞納解消のため一層の努力をされたい

平成23年度の取組みとして、一斉徴収や休日納税窓口の開設、ほかに電話催告等により滞納者へ自主納付を促した。滞納処分については県の短期派遣職員の協力により、滞納繰越分の収納率が大幅に向上した。

町を彩る団体紹介

民俗芸能団体をシリーズで紹介します！



式内社 川勾神社雅楽の荘厳なる行進

川勾神社雅楽 保存会

会長 橋川卓司

当会の発足は昭和41年のこと。当時のメンバーは前年まで宮世話人を中心としていた方を中心に7名と聞いています。川勾神社には皇紀2千600年（昭和15年）を記念して寄贈された雅楽器一式が保管され、戦中戦後の一時期を除いて氏子の皆様によって演奏されていましたが、昭和40年頃は演奏が中断されました。そ

こで、せっかく楽器があるのにもつたないというところで、前述の7名の発起人により当会が結成されました。

指導は当時平塚八幡宮の宮司をされていた今坂様にお世話になったと聞いております。

最近では若い会員の加入があり、会発足以来もとも充実していると思いますが、ここまでくる間にはご指導いただいた今坂様のお力が大きかったと感謝しております。

また坂本孝也町長や故原富士徳議員もメンバーとして長い間活躍していただき、会の発展に寄与していただいたことを申し添えます。

二宮町 レクリエーション 協会

会長 吉野小夜子

私達の協会は昭和40年4月1日に発会しました。当時の会員は婦人会、青年会、学校関係者など総勢百人以上とも言われ、町内全体の盆踊り大会は盛大に行われ、賑



野に咲く花のように...

わったそうです。

その後時代の流れでサークルが分散され、現在では個人の趣味を生かし、県民謡指導連盟講師より指導を受け、毎週月曜日13時から町民会館でお稽古。一人でも多くの方に生活の中から生まれた伝統文化である民謡の素晴らしさに触れていただきたいと思えます。

町内では、初踊り「吾妻さんよさこいパレード」・節分祭、盆踊り大会、文化祭、民俗芸能のつど

い等に、県民踊りは、支部初踊り、会員大会研修発表会、月例会、クリスマス大会等に参加。

会員平均年齢は非常に高いですが、野に咲く花のように元気で「踊るアホウに：踊らな損」と、明るく楽しく健康で、人に優しく思いやる感謝の心で大輪を咲かせ、町、県のために頑張ります。

この号ですべての民俗芸能団体の紹介は終了しました。

編集室だより

今議会は故・原議員の黙祷から始まった。今後は、改選まで1人減の13人の議員で議会運営をするため、本会議で可否同数の場合は議長採決となる。国の政治、経済が低迷する中、地方財政は益々厳しさを増す。国・県の交付金、補助金に頼る二宮町には、頭の痛いところだ。

町の税収入が減り、少子・高齢化が進み、ネット社会の今、町民ニーズの多様化に拍車がかかる。この時こそ、行政・議会の改革は必要不可欠。明日の二宮像を描き、着実に一歩一歩進みたい。安心、安全で住みよい町のために...。(S・N)

- | | |
|------|----------|
| 議長 | たより編集委員会 |
| 委員長 | 神保 順子 |
| 副委員長 | 脇 正文 |
| 委員 | 西山 宗一 |
| 委員 | 浅賀 一伸 |
| 委員 | 添田 孝司 |
| 委員 | 二見 泰弘 |